

アウトドアでの夏の親子の肌対策事情

パラドゥでは、日焼け止めジェル「パラドゥ バズ® ガードUV」のリニューアル発売に向けて、子どもをもつ30・40代の女性を対象に“アウトドアでの夏の親子の肌対策”に関する調査を実施しました。

子どもの年齢が低いほどママの肌対策意識は高まっているものの、現状に満足できていない様子が見られました。

調査概要

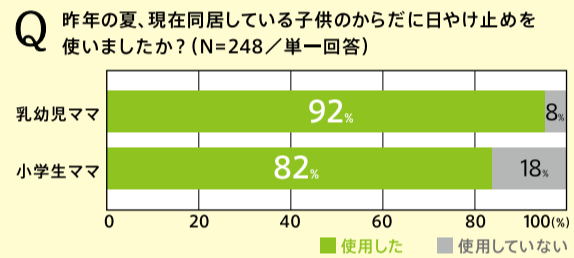
方法: インターネット調査 時期: 2016年1月

対象: 乳幼児(0~6歳)もしくは小学生(7~12歳)の末子をもつ30・40代女性248名(各世代共に乳幼児もち62名/小学生もち62名)

調査結果

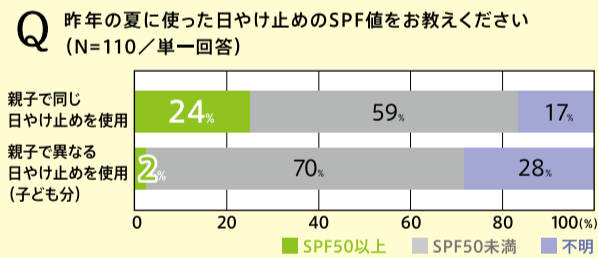
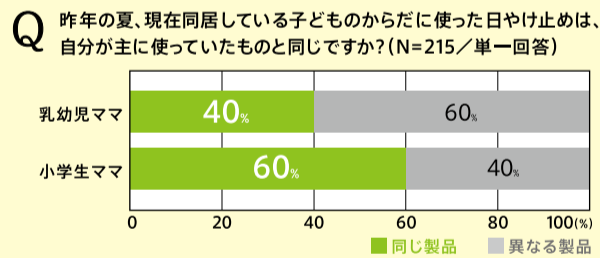
1. 日焼け止めの使用率は、小学生よりも乳幼児の方が高い

「子どもに日焼け止めを使用しているか」をたずねたところ、乳幼児の92%が日焼け止めを使用しており、小学生に比べ10%高いという結果に。小学生に比べて乳幼児の肌がデリケートであることに加え、保育施設などで使用を推奨する傾向も見られることから、ママの使用意識が高まっていると推測されます。



2. 親子での日焼け止めのシェア状況は、小学生よりも乳幼児の方が低い 乳幼児親子は、「子ども用の紫外線防止効果の低さ」に不満

「子どもと同じ日焼け止めを使用したか」をたずねたところ、小学生親子の60%が共用していたのに対し、乳幼児親子は40%にとどまる結果となりました。また、乳幼児親子の「SPF50以上」の使用割合は、日焼け止めをシェアした親子(24%)よりも別々の日焼け止めを使った親子(2%)の方が22%も低く、「子ども用だとSPF値が低すぎる」など紫外線防止効果の低さに対する不満が見られます。



3. 日焼けと虫さされの両方を防ぎたいママは90%も!

「肌負担なく、日焼けと虫さされの両方を防ぎたいか」をたずねたところ、乳幼児と小学生ママの90%が、「そう思う」と回答。親子のアウトドアでの肌対策として、日焼けだけでなく虫さされ防止へのニーズも高いという結果に。じっとしていることが難しい年齢の子どもをもつママたちは、手軽にケアさせたいと考えている様子が見られます。

